

ファーストタッチ（お別れに寄せて）

学生さんと初めて出会う瞬間、それがファーストタッチだ。学生証を受け取りに来られる、その機会を逃したくはない。「放送大学に入られた目的は？」
「以前からご存じでしたか？」他愛もない話から始め、「よろしければ施設をご覧になりませんか？」とマスターキーを片手に案内を始める。上階の教室や相談室、下階の視聴室や休憩室、サークルの部屋、そして最後に案内するのがロビーにある“サカエさん”のパネルだ。101歳で4コースを卒業された、言わば裏のギネス記録保持者（故人）だ。サカエさんは80歳を過ぎて科目履修から学びを始め、90代になっても卒業を目指す学生に劣らぬ勢いで単位を積み上げ、先輩職員の誘いで全科履修生となり、95歳で初の学部卒業を達成。その頃、このロビーで「私はもう歳だから・・・」と嘆く初老の学生たちに喝を入れてくださったのもサカエさんだった。

学生証を取りに来たばかりに、小一時間の館内ツアーに巻き込まれ、最後にパネルに向かって涙ながらに語る風変りな職員と出会った学生さんの運が悪いのか良かったのか。結局、学習センターに通う常連さんになられた方も多いのは確かだ。こうした出会いも窓口職員の醍醐味だったが、3年程前から業務分担の都合で外れることになった。在職通算7年と6ヶ月、道民流の学生支援として数々のイベントを企画してたくさん笑顔を見ることができた。がっかりされたこともあったかもしれないが、自分の色は出せたと思う。



そして、学生さんばかりでなく、広報担当として、様々な出会いがあった。高校の先生や病院の看護部長など、思い浮かぶ顔はどれも温かく、皆がファーストタッチの出会いだった。最初に出会った人の印象はその組織全体のイメージになる。例えば岩手や群馬の方との出会いが素敵だったなら、その県の人々は皆良い人だと思ってしまうように。だからこそ、その逆にはなりたくなくて、いつも精一杯、努めてきた。そのときは、いつも熱心に取り組む学生さんの姿を思い浮かべた。

出会った方々の末永い健康と幸せを願いながら、ここで筆を置く。
長い間、ありがとうございました。

2026年3月

放送大学北海道学習センター

広報・学生担当：加福 千明